

〔事例報告〕

文化的景観に対する学生の興味関心 — 大分県豊後大野市文化的景観を事例として —

今西 衛*, 本村 裕之*, 山城 興介*, 長崎 浩介*, 後藤 厳寛*

*日本文理大学経営経済学部経営経済学科

Japanese University Students' Interest in Cultural Landscapes: — A Case Study of Bungoono City, Oita Prefecture —

Mamoru IMANISHI*, Hiroyuki MOTOMURA*, Kosuke YAMASHIRO*,
Kosuke NAGASAKI*, Takehiro GOTO*

*Department of Business and Economics, School of Business and Economics, Nippon Bunri University

1. はじめに

日本文理大学経営経済学部経営経済学科では、大分県豊後大野市をフィールドとし、学生が豊後大野市の魅力を発掘し、観光PRにつながるような地域マネジメントのスキルを身につける学修を行っている。

一方で、企業からは「自然や文化・伝統など幅広い視野に立って、産業界の要請に応える各分野の専門知識と実践応用力を身に付けていること」というアンケート項目に対して、「身につけている」と回答した企業は20%あまりであり、この分野での学生の成長が求められている⁽¹⁾。

本稿は、文化庁の国重要文化的景観「緒方川と緒方盆地の農村景観」を題材として、学生がPR活動を通して、自然や景観に関心を深め、産業界の要請に応えられるマーケティングなどの専門知識を修得するフィールドワーク形式の学修プログラム実践の紹介と効果検証、今後の展望について報告する。

2. 学修プログラムの目的

2. 1 取り組みの背景

日本文理大学では2014年のCOC事業採択以降、様々な地域活動を行ってきた。経営経済学科地域マネジメントコースでは、豊後大野市をフィールドとして動画の作成などを通して、活性化活動を行ってきた。この活動では、田植えや稲刈り、チューリップの球根植えなど体験型学習に対しては、非常に積極的であるものの、今後の地域活性化のあり方についての考えを地域の方に伝える力が弱い。

たとえば、豊後大野市商工会との座談会において、今後のチューリップフェスタの運営についてどのようなことが必要であるか地域から意見を求められたが、なかなか回答できなかった。

地域や産業界が求めているものをなかなか学生が身につけていないことを実感した。また、4年生で、プレゼンテーションを行ったが、学問的な内容で、実践レベルではなかったため、机上の空論にも聞こえていたようだ。

2. 2 2023年度の取り組み

こうした反省を踏まえ、地域の実情に応じたフィールド活動が必要であると考え。そこで、2023年度は、文化庁から選定を受けた国重要文化的景観「緒方川と緒方盆地の農村景観」を題材として、フィールドワークを行った(表1)。しかし、農村景観に対して興味がわか

ず、原尻の滝には興味を持っていたようだ(図1)。

図1の中で、ロッジ清川が突出して「非常に良かった」と回答している。実際に宿泊をした施設で、2015年のプロジェクト開始以来利用している施設であり、学生と一緒にどのような宿泊施設であればよいかを考えてきた。

たとえば、辻の石風呂がサウナみたいなので、石風呂

表1 2023年度事業活動一覧

前半	2023年5月19日	本プロジェクトについて説明
	2023年8月31日 -9月2日	フィールドワーク(経営経済学科1年生13名、教員4名)
		ロッジ清川宿泊の2泊3日形式
		軸丸棚田など豊後大野文化的景観保護地区を重点に散策
		動画を撮影
後半		講演会
		成果発表会
	2023年10月19日	前半の反省、後半の目標について
	2023年11月24日	フィールドワークに対する事前学習
	2023年12月1日	原尻の滝での球根植え(経営経済学科1年生15名、教員1名)
	2023年12月9日 -12月10日	フィールドワーク(経営経済学科1年生38名、教員4名)
		宿泊と日帰りの選択を可とした
	水路のみに限定し、素材集め、動画撮影	
	国重要文化的景観「緒方川と緒方盆地の農村景観」選定記念シンポジウム聴講(12月10日緒方公民館にて開催)	
2024年1月15日、 1月19日	動画作成、成果報告会(学内)	

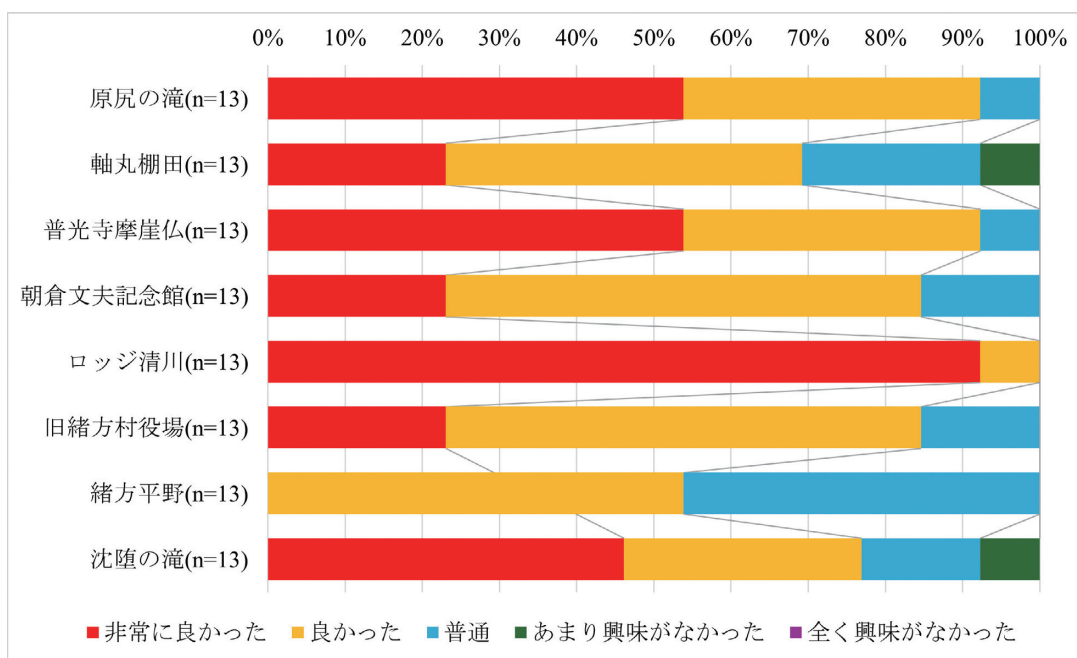


図1 それぞれの訪れた場所に対する評価

を体験することはできないかなど学生が提案したところ、2020年に豊後大野市サウナプロジェクトが結成され、多くの来訪者、宿泊者が訪れ、全国的に有名になった。

ただ、このように全国的に有名になった施設であり、学生も非常に評価している施設でもあるが、経営者の手腕によって、魅力ある施設になっているのが現状で、2015年の開業から学生が、経営などについて議論し、いくつかの提案を行ったが、実現化したものは少ない。学生の提案で、全国的に有名な施設になっていけばというのが、教員の立場の意見である。

サウナブームもブームである以上、競合他社が現れたり、他の体験型施設が登場したりする恐れもあるので、今後のロッジの経営に関して学生が積極的に関わることで、自然や景観を生かした産業界（ここでは宿泊施設）の要請に応えられるような人材育成をすべきであると考ええる。

次に、人気が高かったのは原尻の滝（図2）や普光寺の磨崖仏（図3）である。これらは、迫力があるので、学生にも刺激があった景観といえるだろう。特に原尻の滝は、大雨の後であったこともあり、普段より水量が多く、ダイナミックな雰囲気を感じ取られた。



図2 原尻の滝（2023年8月31日撮影）



図3 普光寺磨崖仏（2023年8月31日撮影）

その他の自然・景観は、良かったなどになっている。

このように、楽しいと感じた場所については非常に自由回答が多かったが、楽しくないと感じた場所については自由回答もほとんど記載がないため、なぜ、興味を持たなかったのかの要因を探ることができなかった。

文化的景観のメインは軸丸棚田（図4）や緒方平野（図5）なので、今後の課題として、場所ごとに、どうしてそのような評価をしたのかアンケートで尋ねたい。



図4 軸丸棚田（2023年8月31日撮影）



図5 緒方平野（2023年8月31日撮影）

3. 学修プログラムを通して学生に成長してもらいたいこと

3. 1 動画作成を通じた自然・景観への関心を高める

大分県豊後大野市緒方地区は、文化庁により、「大分県豊後大野市文化的景観保護」の認定を受けた。緒方地区は、棚田や水路が張り巡らされ、日本の原風景が見られる。一方で、景観の保護が喫緊の課題である。そこで、自然・景観をテーマに学生の視点からPR動画を作成することとした。

YouTube ショート動画では、普光寺磨崖仏、旧緒方村役場、ロッジ清川の3本が作成され、公開した。再生は、2023年9月から2024年5月29日時点で、100-300再生（図6）である。



大分県のおすすめ穴場スポットはここ!! #shorts 247 回視聴
絶対に行ってほしい大分の穴場3選!! #キャンプ #サウナ... 107 回視聴
53秒で大分県豊後大野市を紹介! #shorts 332 回視聴

図6 公開された YouTube ショート動画

また、棚田や水路の動画を作成しているグループはなかった。これについて学生に聞いたところ、次のような回答であった。

- ・水路をメインにした紹介動画の作成が難しかった
- ・事前学習が不十分
- ・テーマをしっかり把握できていなかった
- ・旧緒方村役場や、原尻の滝、普光寺磨崖仏が私の中で深く印象に残った
- ・水路の魅力をどのように動画で伝えればいいのか分からなかったから

3. 2 ロッジ清川の経営・運営について

JOY VILLAGE 株式会社の代表取締役は、滋賀県から移住し、観光資源の乏しい豊後大野市に20代でロッジ清川を立ち上げ、自然や景観を生かしたツーリズムを構築してきた。この内容は、まさに、自然や景観を生かした産業界の要請に応えられるような人材育成に合致したため、フィールド・スタディの講義の中で講演をお願いした。なぜ、この地にロッジを経営しようとしたのか、地域にどのように貢献したいのか、何もないところをいかに魅力あるものにするかなどご講演いただいた(図7)。



図7 ロッジ清川での講演

2015年の開業から、本学も携わっているが、当初は、学生と一緒に何かを考える形から、開業10年を迎え、学生との年齢も少し離れてきていることから、学生との協働も一緒に考えるから、成功事例の話に代わってきている。一方で、サウナ事業がいつまでも可能とは限らないので、これからも学生と協働できる場所を模索していきたい。

3. 3 エリア限定で動画作成

10月以降は、これまでの内容を理解していなかった、予習が足りなかったという点を踏まえ、散策ルートも限定し、水路(図8)やサイフォン式水車(図9)、石橋(図10)の動画を撮影するよう指示した。

特に事前レクチャーで、水路が立体交差している場所などは、学生は熱心に写真や動画に収めていた。



図8 緒方平野の水路



図9 サイフォン式水車



図10 石橋を視察する学生



図11 立体交差になっている水路を視察する学生

3. 4 大学生をターゲットにするためにはどうすべきか
振り返りレポートにて、「大学生をターゲットとした水路の動画（YouTube）を作るにあたり、どのような仕組みが必要なのか」をレポートにまとめた。しかしほとんどの学生が、大学生は水路に興味がないと説明していた。

一方、松本・吉村・足立⁽²⁾は、宇佐市ではあるが、水路についての歴史的背景、サイフォン式水路など歴史や、化学などに興味を持ち、その観点から卒業論文を作成した。

この興味・関心の違いはどこに表れているかであるが、1点目は、松本らは、コロナ禍で、4年間の講義がほぼオンラインであったため、フィールドワークを行うことに渴望していたこと、2点目に2021年に宇佐市が世界かんがい施設遺産に登録されたことから、全国的にニュースになったことが挙げられる。

興味は持ったものの、具体的になにが評価されたかについて当初は全く理解していなかったため、平安時代の「荘園制度」などから学び直した。また、サイフォン式水路も評価されていたが、サイフォンを知らないとのこ

とであった。大学近くのカレー店で学生はサイフォン式コーヒーを飲んでいただけから、自宅で、サイフォンの実験（図12）をするなど、単に、水路を眺めるだけでなく、広い視野で研究を行った。こうした、コロナ禍でフィールドワークに対する欲求が自発的な行動につながったと筆者らは考えている。一方、今回のプログラム参加者は、何かしらのフィールドワークを経験しており、フィールドワークに対するモチベーションがプログラムとマッチしていなかったと推測される。図2-図3のように迫力や、わくわく感のある活動ではなく、図8-図11の写真のように、地味な場所を散策しており、学生は楽しくフィールド活動を行いたかったようだ。年度によって、学生のモチベーションが大きく異なるのは、私たちの悩みの一つであるので、モチベーション向上となる刺激を与える何かを構築していきたい。



図12 サイフォン式水路の再現⁽²⁾

4. 結論と今後の課題

本稿では自然や景観に興味・関心を示してもらうために学生にどのようなプログラムを行えばよいかを探った（今回は、地域の方々から多くの話を聞き、通常より多くの刺激を与えられているはずなのだが、それ以上のアウトプットが生まれなかった。）。しかしながら、学生からは「興味がない」という返事や、レポートでも「興味がない」に終始し、なぜ興味がないのか、教員として改めて要因を探りたい。

今後は、「興味がない」で終わらせるのではなく、何がダメなのかを検証できるプログラムに改訂していきたい。

謝辞

本稿は、令和5年度教育・研究改革推進事業に採択された「学生の地域資源を活用した観光プロモーション活動における教育改革事業」である。関係各位に謝意を表したい。

参考文献

- (1) 日本文理大学, “卒業生に関するアンケート調査 (企業対象) 集計結果”,
https://www.nbu.ac.jp/education/facilities/pdf/graduate_questionnaire.pdf, 2024年5月30日閲覧.
- (2) 松本翔・吉村剛・足立蒼太, “なぜ宇佐市は平田井路と広瀬井路を世界かんがい遺産に登録しようとしたのか”, 2022年度日本文理大学卒業論文, 2023年

(2024年6月13日受理)